

地域懇談会実施報告書

自治会名 常盤泉地区

開催日 8月20日(月)

時間 19:00 ~ 21:15

開催場所 泉公民館

参加人数 30 人

懇談内容 別添 議事録

質問等後日回答を要するもの
回答の必要はありません。

対応

行政側参加者氏名

庶務課長 酒井 富雄
常盤公民館 勝野 富男

記録者 勝野 富男

泉自治会地域懇談会会議録

平成 19 年 8 月 20 日（月） 19：00～

1. 区長あいさつ
2. 市長あいさつ
第 4 次総合計画（ダイジェスト版）の説明
3. 懇談会 【開始 19：15】
進行：区長

出席者

市長就任後の市政全般に関する感想を聞きたい。

- （１）大町市の良い点、悪い点について
- （２）職員に対して
- （３）議会に対して

市長回答

- （１）大町市の良い点、悪い点

私自身、生まれてから 18 年間住んでいたのも悪い点についてより、良い点の方がたくさんあり、その点少し甘い評価になりますが、良い点については豊かな自然に育まれているので人間性がすごく豊かであると思います。ところがこれと裏返しになるのが、あまりにも小さな社会に仲良く暮らしてきたので、新しいことに挑戦する気風が比較的少ない気がしています。昭和電工、東洋紡などの大企業があり、新しいことにチャレンジしなくても地域経済が上手くまわっていましたし、観光についても黒部ダム、温泉郷など恵まれた資源があり比較的努力しなくても良かったのではないかと思います。これからは座っていても時代が動いていかないので、皆で汗をかいて努力することが大切かと思っています。良い点と悪い点は表裏一体のものだと思います。

- （２）職員に対して

職員の数は妥当なのか合併により多すぎではないのか、大町市とほぼ同じ行政規模の駒ヶ根市の資料をもらい比較検討してみたところ、トータルの人数は 60 人程度多く、合併した大町市の標準規模でも 66 人多いと分析されています。10 年間かけてこの数をゼロにもっていきたい。職員数が多くなったことは合併によるデメリットだというのが、一概にそうとは言えず、合併によってお互い良い刺激がでてきています。一生懸命取組もうという姿勢がでてきている。合併により人件費が一時期大変ではあるが、良い刺激が与えられていると感じるのが就任 1 年の感想です。それでは全

体的にはどうかというと、市の職員は市民が直面している問題を解決していくことに汗をかいて努力していると思います。ひとつひとつの市民の要望や、問題に機敏に取り組んでおり、職員の資質は高いと思います。

(3) 議会に対して

私が発言すると誤解を招くといけませんが、率直な感想を申し上げますと市長は常勤ですので毎日市役所で仕事をしています。議員は合併前24人で合併後は18人に減らしていただきました。報酬は県下19市の水準から比べて決して高くはありません。たしか低い方から2番目という水準で、議会の度に、市又は地域で何かある時はその度に参加していただき、なおかつ議員は情報の発信力が弱く、市長は常勤であり市のリーダーであるので「どこでどのようなあいさつをした」等新聞などで度々取り上げてもらえますが、議員はどんなに苦勞していても、なかなか議員活動を住民の皆さんに知っていただく機会が少ないと思います。私は議会と言う立場は理事者側と対立関係にあり、私どもの考え方に対して批判をし、検証していただくことが議会の仕事であると思います。そういう意味では対立関係にあるのですが一人一人の議員の皆さんの活動に対しては本当に頭の下がることがあります。さらに市民の皆さんから厳しいご意見をいただいたり、大変な仕事だなと思うこともあります。これからも議会の皆さん18人という少ない人数で32,000人のこの市全体の、しかも合併によって広がったこの地域全体の行政のありかたを検証し、吟味して下さるという大変なお仕事を引き受けていただき、なおかつ慣れあうことなく緊張関係をもって進めていきたいと思っています。

市長回答 (地域懇談会の回答について)

ご質問にはできるだけお答えできるよう準備してきております。ただし市政全般について私が把握していないこともありますので、お答えしきれなかったことは持ち帰って調べて、必ず連絡をさせていただきます。それから、これまでやってきました部課長がここに揃ってお答えするよりも、また確答をしてしまわないほうがいいこともあるかと思い、このような形をとらせていただきました。

出席者

大町市の財政状況について、特に三位一体改革による財源移譲が、市の財政にどのような影響を及ぼしたかお聞きしたい。

市長回答

まずは三位一体について、三つの地方財政上の改革を一括して解決するというものです。まず、補助金はひも付きといわれ全国画一的な行政を維持していく時の例えは、義務教育の国庫負担法の補助金などや、先鋭的な

政策を奨励するために出してゆく補助金など、いろいろな施策上の意味があります。しかし、逆に補助金をもらうがためにやらなくてもよいような仕事をしてしまう、また、補助金のさまざまな制約があるため地域に合わない施策を行うなど、幾つもの弊害が生じてきました。そこで補助金をやめてその補助金の金額を地方に地方税として移譲して、地方が納税者の身近なところで税金の用途をきめることが望ましい。

地方交付税は、国税5つの一定の割合を地方に交付する、地方にも税源はありますが、団体の大きさによって税が違いますので、国が一括で集める国税の一定の割合を地方に配分しなおすもので、交付税が年々増えると国も頭の痛いところで、地方に判断をまかせれば交付税が少なくてすむようになるだろうとして一括して解決しようとした。地方からはできるだけ補助金や交付税の仕組みをシンプルに効率的にすること、ただしそれでも地方の財源の弱いところには、ちゃんと交付税を確保してくださいと要望していましたが、実現されていない。交付税の総額が異常に減らされ、また、補助金が5兆円減らされ、税にふりかえられた。地方から見れば大きく財源が目減りした。大町市では交付税で五千万円減っている。国の補助金が削減され、更に地方交付税も減る。

地方同士でも東京と大町では住んでいる人口・企業の立地が違う。これの違いを埋めるのが地方交付税なので東京都はもらえない。日本中では40団体、県下では軽井沢・南相木村（東京電力の固定資産税）が交付されていない。現在県下の81市町村のうち79市町村は受けている訳で、交付税は税源の大きさによってきまる。大町市の32,000人の人口と産業からするともう少し地方交付税が入ってきてもよいはずなのに入っていない。制度が理論的な仕組みであって現実とは一致しないところがあります。現在減らされているのは、この制度に欠陥があり、長野県中大半が足りていない状況です。

出席者

国営アルプスあづみの公園の開園は、平成22年と聞いているが常盤地区や泉地区の住民について、具体的にどのようなメリットがあると考えたらよいか？

市長回答

平成21年4月春季開園のめどについて

(1) メリットについて

誘致の際には月に橋をかけるほど難しい事だと言われていました。地域の方々の熱意と努力によって建設が決まり、着工しました。平成16年には堀金・穂高地区がオープンしました。3年間で70数万人、一年間で24万人のお客さまがいらっしゃいました。松川・大町地区は大都市圏から離れていますが、アルプス・里山などに触れたいといらっしゃると思いま

す。大町・松川地区の整備は、特色をつけています。私も春先に行かせていただきましたが、だいぶ建物が出来ていました。この公園にどのような魂を入れるかが大事だと思います。特にすごいとおもったのは林間トレイルと言う名前ですが、林の間を空中に廊下を作って、普段だと樹下から眺める木のこずえを間近に見ることが出来る、東南アジアのジャングルにある森の上に道をつけたようなもので、空中というほど高くはありませんがそのような特色のあるものがあります。また、広い森と草原がみごとです。入場料は子ども80円、大人400円です。小さな子どもさんをつれて行くにはよいのではないかと思います。お客さんを地域に滞留して観光や商業に生かしてほしいと思います。特に常盤地区は農産物が盛んですのでそれを活かすような、地場の美味しい食べ物を賞味してもらい、買ってもらうなどの機会が出来るのではないかと思います。

メリットとしては、この地域に直接に観光や農業などに刺激を与えられ、ビジネスチャンスが出てくるのではと思います。清水の交差点には新しい産地直売所ができています。泉の蓮華大橋の手前には産地直売所を設けて頂いておりますし、まちがいなくお客様は多くなると思います。しかし、通過されるお客様が増えるのではなく、目をひくような地域の特産物が必要かと思えます。ただ眺めていてもお客さんは増えないので、みなさんで工夫していきましょう。

(2) デメリット

交通の問題があります。国営アルプスあづみの公園が西山・清水地区にあるので147号線から山麓線を通り、オリンピック道路を通って常盤泉地区に車が増えることが予想されます。急激に増やさないようにする、また交通の分散をさせる、交通安全施設を増やす等改良して行かなくてはならない。合わせて考えていかななくてはいけないと思います。

今はまだ構想でなかなか実現出来ないが、現在、仏崎まで北周りの道が出来てきています。それがそのまま山麓線に乗ると車が集中してきますので、山麓線で止まるのではなく、もう少し東に伸ばしたいと構想していますが、目途がたっていません。

新しく用地を買わせて頂いてと思っておりますが、道路改良を進めて検討していくことが必要かとおもいます。

今は、常盤地区・泉地区についてのメリット・デメリットをお話しましたが、大町市にとっては観光の一つの拠点が出来たと言うことは、地域全体にとっても大きなことなのです。ひとつは安曇野市には観光客は来るが、それから北へはなかなか来ない。まだ、松川村のちひろ美術館・すずむし荘までは来るが、Uターンしてしまうと言う話をよく聞きます。少しずつ北へ北へと呼び水で、これを大町市内にまで足を伸ばしてもらい、そして大町温泉郷へ来てもらったりして、少しずつ手がかりになって行くのだろうと思っています。清水地区では道路の沿線にそばを蒔いたり、田んぼの土手に少し花を植えて頂いたり、そして、観光客がもう少し北へ行ってみようかと思う呼び水の取り組みをいただいております。

泉の皆さんも、庭に花を植えていただいておりますので、南から

来るお客さまも、少しずつ北へ行こうと思うように智恵を出しながら、地域全体に効果が得られるような取り組みをしたら良いのではないかと思います。社の宮本地区では仁科神明宮があり、宮本橋も整備されましたので、国営アルプスあづみの公園に来た方は、そのまま東へ抜けて行って、受け皿をと言うことで社地区でもいろいろ智恵を使ってやっていこうとしています。良い意味で地域間の競争が始まれば、大町市全体も光り輝くまちになっていくのではないかと思います。

出席者

後期高齢者医療制度について

平成20年4月から75歳以上の人は現在『老人保健制度』に代わって、新たに独立した医療保険制度『後期高齢者医療制度』に加入しなければならないことになっている。新制度設定の理由は高齢者の医療費が増える中、現役世代と高齢世代の負担を明確にし、公平で判り易い制度にするためであることは承知しているが、高齢者に新たな負担増を強いるものになるのではないかと不安が高まっている。そこで現在の保険料と比べて具体的にどんな負担割合となるのか知りたい。

市長回答

来年春から始まります75歳以上の方を対象にした新しい医療の保険制度です。今の様々な社会保険制度で、高齢者の医療費が増えて行くので高齢者数の増加、医療の質や水準もありますが、どんどん医療費が膨らんでしまって、国の施策の中で医療費を膨らまない様にしようということから、一つ目は医療費の負担制度、二つ目は各医療保険の間での調整、三つ目は健康を維持してゆく施策を後期高齢者医療だけではなく、社会保険・国民健康保険・共済保険であれ、各保険者に健康づくりにもっと取り組む様に、もっと予防に取り組む様にいくつかの施策を織り込んだものであります。

個々の市町村で取り組むには大変なので、長野県ではすべての市町村が共同で広域連合を作ってその大きな中で事務処理をすることになっております。81の市町村が協力しあって、この制度を担っていく予定です。

ご質問の自己負担についてですが、一つ目の自己負担は原則一割となっております。保険料は二つの仕組みをもっております。応益割、つまり頭割りと応能割、つまりたくさん所得を得ている方は沢山負担していただく、この二つの方法をミックスします。全国平均で一ヶ月一人3,100円と言われております。ですからご夫婦の場合は6,200円で、これが応益割（頭割り）の部分で、応能割の部分も一人3,100円両方合わせて平均一人6,200円で、ご夫婦の場合は12,400円となります。これが標準的な額です。しかし標準的といわれましても判りづらいかと思っておりますので、基礎年金受給者で年額79万円ですが、それだけの受給でやってい

られる方は応益割（頭割りの部分）が900円で、応能割の部分は0円です。900円と言うことになります。79万円で一年間暮らすのは大変なことから、非現実的です。その上の水準の厚生年金の平均的な受給者の厚生年金年間208万円という方の平均は、応益割が3,100円、応能割が3,100円で合わせて6,200円になります。先ほどの全国の標準的なのはこの厚生年金208万円の場合です。収入の多い方は負担が増えます。

出席者

浄化槽組合について

泉地区は下水道施設予定外地区のため浄化槽対応地域となっている。従って浄化槽組合の運営は関心事であるが、市町村合併に伴い、平成18年1月からの規約改正により代議員制になったため、一般組合員は総会に参加できず発言の場がない。その代議員制にしても単に大町地区18名となっているだけで、具体的選出方法が明記されていないのは不合理である。参考までに、現状は平成15年以来の理事がそのまま代議員に移行している。これは18年度の総会で承認された事ではあるが、今後の改選はどのように行うか、やはり不明確と言わざるを得ない。また代議員制そのものはやむを得ないとしても、一般組合員の声を反映させる『場』と『方法』について考慮が必要ではないか。

市長回答

浄化槽組合は合併に伴い組合員は2,500人ほどの方がいるそうです。そこで今までは代議員制をとらず、ひとりひとりに出席していただき意見を述べていただきましたが、大勢になったということで代議員制とし、代議員会を設立していただいていたということになりました。

今回はたまたま制度の切り替えのため、これまで役員を務めていた理事の方が代議員になられ、美麻・八坂は新しい方々を選出されたそうですが、大町はもともと理事をされていた方がそのまま代議員として就任されたということで、この次はどのような選び方かは聞いてはおりませんが、一応代議員制の趣旨と第一回の選出についてはそうした事情だったそうです。これは当然公益的な仕事になっております浄化槽組合ですので、みなさまのご要望に沿うような運営のあり方や、代議員の選出のあり方があってしかるべきだと思います。ご意見は事務は市の水道部で担当していますので、担当課へ伝えさせていただきます。

代議員会が正式な意見交換の場で、そこが決定機関になりますが、そこで様々なご要望がありますと代議員の方に意見を託していただくことも一つですし、市議会も代議員制度ですが、市民のみなさんのさまざまな意見は市議会議員をつうじる場合もありますし、直接市役所にご意見やご質問をいただくこともあります。これと同じように管理組合にも直接ご意

見・ご質問をお伝えいただいてもよいと思います。

出席者

(1) 国営アルプスあづみの公園開園に伴い、交通形態の変化と県道有明大町線の泉地区(公民館付近)の予想交通量について

先般、国営公園が平成19年3月開園予定と報道されたが、県道有明大町線は、公園と市街地を結ぶアクセス道路に位置づけられており、現状より交通量が大幅に増えると思うが予想交通量についてお聞きしたい。

(2) 県道有明大町線の泉公民館東からオリンピック道路との交差点間の未施工部の対応について

現在、この間の工事がストップしている経緯と、(1)の交通量の増加により、仮に現状で車両が増えると、交通渋滞や交通事故の発生が憂慮されるが、未整備区間の施工見通しについて伺いたい。

市長回答

公園を作るときのデータだと思いますが、来客者数を百万人とみたがありました。私も当時、高度経済成長の時にスタートした計画ですので、海外へこのように大勢の観光客が出かけてしまうとは想定していなかったと思いますし、まだ人口もどんどん増えているときの開園を想定していたと思うので、二つのアルプスあづみの公園の入場者数をあわせて百万人とは、その時点ではそんなに架空の数字ではなかったかと思います。年間2百万人だそうですが、実際先に開園しました堀金地区が24万人、仮に大町松川地区が24万人、合わせても約50万人とすると想定よりはだいぶ低いことになります。ただし、これも先ほどお話ししたようにまだまだ一部開園であり、まだ二期工事を残しております。二期工事は今なんともいえないのですが、完成したあかつきに、魅力的な施設になった場合はそのくらいの入場者数があるかもしれません。ただ人口減少社会で、また遠くに出かけず家の中でファミコンやパソコンで楽しむという世代が増え、レジャーのパターンが変わってきたということで200万人はキツイかと思います。ただ例え20万人でも、年間20万人の方が来るということは相当大的なインパクトになると思います。いい意味でのインパクトとさまざまな悪影響と両方があると思います。このインパクトを地域でどのように生かすかということが、公園自体の魅力をさらに高めるということでいいますと、堀金地区のクリスマスの時にイルミネーションで飾りたてたんですね。県下でも伊那など、いろいろな所でそうした取り組みをはじめているのですが、大々的に始めたのは堀金地区です。イルミネーションで三万人きたという報道でした。冬、人の足が止まってしまう、冬の夜でもそんな工夫をしたということは、従来のやり方からしたら先鋭的にやっていると思います。片山所長さんと意見交換するのですが、大町は冬が長いですし、せっかく穂高にはなくて大町にある物は雪なんですね。雪と清冽な川、乳川なんですね、これをもっと活かそうということで、冬は雪の中

を歩くスノーシューなど、昔で言うかんじきをはいて行くという、そんなイベントも組み込んでいかないと、冬なかなかお客さんが来てくれないという話もしています。

もう一つは、ちゃんとした公認のスケートトラックというのではなくて、ちょっと楽しめるような、スケートで遊べるような氷で遊べるスペースも作ったらどうかと、言っております。昔は大町市から正式にスケートリンクをつくってほしいと要望をしたらしいのですが、正式なスポーツ施設は国土交通省の公園なので作りにくいと言われていました。そのかわり、公園の中で大雨のときに一時的に貯水する池を作りますが、そこに冬の間10センチほど水を入れておいて、冬には大水は出ないので調整池の必要はないので、水を張って凍らせて、来た人に氷の上で遊んでもらう、そんな仕組みを考えたらどうかと提案していますが、なかなかうんとは言ってもらえていません。特に常盤地区は南小の北のグラウンドで大勢の人や子供達がスケートを楽しんでいますから、より氷というものに親しめるような、取組みをしていったらどうかと思っています。これは魅力を高めると言うような意味でそんな工夫も良いと思います。

一方では増えてくる交通量をどのようにするかということです。基本的には国道147号と堤防道路、宮本橋を渡った明科大町線及びこの山麓線の4つの縦の南北の道路に分散させようと、横につらぬく都市計画道路アクセス道路が出来ました。果たしてそれだけで想定したような分散が出来るかということ、必ずしもそのようになるか解りませんので、もう少ししっかり想定しながら対策を考えなくてはならない。例えば道路は新たにあげることは不可能でも、渋滞しそうな交差点を改良する、右折しやすいレーンを作るなど、そのような工夫をしていく必要があるだろうと思います。その多くは県道で、県の管理でありこの辺では大町建設事務所の管理になります。いろんな要望をあげていくことも多いかと思っています。その中でこの公民館から東に抜けていく道路の未改良の部分があり、私も気になっておりますので、何回か建設事務所に聞いております。まず総論で言いますと、高見町の改良に合わせて都市計画街路の曾山・観音橋線の事業計画により、観音橋からこちらまで含めて道路改良をしようとして進めております。今、観音橋からこちらまでは部分改良になっています。この全体改良は平成22年で一応区切りになるんだそうです。そこで22年までに計画している部分はなんとか仕上げたいと言っています。仕上げたいと言っている一つは観音橋の東側、現在狩谷整形外科の所を改良していますが、そこから観音橋のところまでなんとか繋げてしまう、それから観音橋からこちらまでの未改良の部分をなんとか繋げたい、現在、虫食い状態でなんとか部分的に広がりました。ご協力いただいてなんとか広がりましたがその間はなんとかしたいと言っています。

それは私よりお詳しいかと思いますが、角にあるアパートを造られるときに、関係者の方がおりましたら失礼を申し上げますが、造ろうとしたときに建設事務所に問い合わせたところ、そこに作っても大丈夫だとお答えになったという説と、建設事務所は既に都市計画決定してある訳だからそ

んなことを言う訳はない、という二つの見解がありますが、私はどちらが正しいかは存じませんが、地権者の方はそこにアパートを造り、一軒に2台の駐車場を確保して入居者に入って頂いている。そうすると今から駐車場を狭めて道路拡幅した場合は、入居者との約束を守ることが出来なくなります。実際の所有者の方と管理者の方が、違っているということがありまして簡単に解決できない経過があったようです。これも地域の皆さんも不便をしておりますし、道が急に細くなり曲がっていますので、自転車で田んぼに落ちた方もおるようですので、出来るだけ地域の皆さんのご理解をいただきながら建設事務所にも本腰をいれて改良していただくようお願いしていきたいと思います。

出席者

駐車場をけずって協力せよと言うことはアパート経営にならないと思います。一般的に考えれば沢山アパートもあって競争も大変だと思います。県も一応ルートに入れてしまったからということでたしかに東側も西側も全部計画に入っているんですね。いまさら南にとはいかないと思います。ということはアパートを移転してもらおうという補償をしてもらわないと、これは無理だと思います。簡単に地域の了解を得るという話ではなくアパートを経営しているご本人なり会社にすれば大変なことですから、これをクリアするということは至難の業です。そうだとしたら今のままでいくしかない。何人かの皆さんに話をきいているのですが、今対向車注意という看板が立っているんです、それは前よりも車がすれ違うのが大変なんですよね。ガードレールをつけたりして道路に圧迫感がでてまいりますので、前よりも車が通りづらいという声があり、私もそう思います。これが、1・2年まてば改良が進んで道路が完成すると言うことは至難の業だと思います。この状態をどのようにクリアするのかと質問したかったのです。8月10日ですが北からオリンピック道路を着ました観光バスが、左折をして市街地へ向かうバスがなかなか一回で曲がりきれず、何回か切り返しをして、非常に渋滞していました。オリンピック道路より東側につきましては、南側一車線だけ付加車線をつけている訳です、それ以外は整備できていて、歩道も車道も出来ています。北側がおそらく買収は出来ているのでしょうが未整備になっている。この交差点より向こうについて、改良できないのか、ずっと左折が出来るのではないかと私は思っております。技術的にはいろいろあるのは私も承知しております。

市長回答

二番目のことにつきましては、おっしゃるとおり、技術的には難しい。交差点の向こう側にスペースがあるからということで、三車線分のレーンをとってしまいますと、交差点を過ぎてこちら側に入ってくる時に難しいということが出てくるのだと思います。もう一つ、北から来たバスがな

ぜ左折したかということも不思議です。建設事務所が、どう交通の流れを想定したかということ、北から来るバスが左折するということを考えていなかったと思うんです。大きな流れは、市街地に向かうという場合は温泉郷や、白馬方面からの場合、市街地へは違う所から入ってくると、私も見たのですが。確かに温泉郷に泊まった夏合宿のこどもたちがマイクロバスでよく入ってくる、この間も中津川のこどもたちが木崎湖に泊まって体育館でサッカーをするために大型バスで来て運動場に入って来ます。時々そのような車がありますが、たぶんそこまで建設事務所も想定していなかったと思います。せっかくスペース確保してあるのですから危険の無いよう工夫しながらスムーズにやってもらう様に、私の方から改めて要望してみます。

交差点のアパートの問題ですが、市も一緒に努力して行かなくてはいけないのですが、最終決定するのは県ですので、県の方に強い要望があったことはしっかりお伝えしますと同時に、県下でも一軒で二台というのが普通になってきていますが、県の住宅もそうですが、一軒で一台確保することが最低限です。すでに入ってしまった方には約束を違える事は出来なんでしょうが、これから入ってきてくださる方に、一軒一台ですが良いですかと、了解が出来れば、そのように徐々に切り替えができていければ、当面表側に一台、少し離れてもう一台ありますと現実的な解決になるのではないかと思います。これはいかにせんアパートを所有している方や管理をしている方のご意向もありますので、今とりあえずそんな一般論でお話をさせていただいていますが、確かに簡単なことではないと思います

出席者

大町病院について

市長回答

大町病院をなんとかしてほしいと要望されました。先週大町病院の医師・看護師・事務スタッフの方と意見交換をしました。去年7回やって今年2回やりましたので9回になりました。問題がどんな所にあるかは、意見交換するなかで私も職員も判ってきました。それと同時にもうひとつは風評、いわれのない評判の悪さも、お互いに実感しました。「大町病院は良くないってみんな言うよ」という表現ですね。あなたはご自身で何か経験ありましたかと言うと、自分は特にないけど、みんなそう言っていると、尾ひれがついてどんどん大きくなって特に悪い噂はその様になる。「みんな安曇病院へ行ってしまおう。」と言います。安曇病院の側に住んでいる方に聞くと安曇病院の周りでは「安曇病院で死にそうになって、みんな安曇野市の日赤に行ってしまう。」という評判もあるそうです。医療界では近所の病院は不評というのがあるんだそうです。当たっている部分と当たっていない部分があります。その中で実際に問題になっていること

の一つは、待ち時間が長いということが指摘されています。大町病院ではレセプト処理に今は専門業者に委託していますので市の職員は当たっていませんが、事務処理が遅いということが原因ではないのです。ご指摘のように、一般には電子カルテ、オーダリングシステムなどの電子処理によって手早く薬の調合の指示が出来るシステムが備わってきています。電子カルテにつきましては、お医者様が診断して手書きでやっているものをパソコンで入力すれば看護師・薬剤師へ全部の情報がそのまま行く仕組みがありまして、大町病院でも導入を検討しております。なかなか導入できない理由が二つありまして、機械の配備とシステムで4億円から5億円、それを完熟するまでに半年の研修とソフトを構築するだけで1億円かかるそうです。先般、安曇厚生連で実際に出来ましたのでコストを聞きましたら、この位かかると言われました。コストがかかってもやらなくてはと思っておりますが、もう一つ年配のお医者さんは困るというのです。半年間パソコンの仕組みを覚え直すということは大変なことだということです。そうしないと若いお医者さんが来てくれなくなってしまいますので、その前段としてオーダリングシステムいうのを出来るだけ早めにやろうかと、今具体的に検討していただいております。

医師の確保の問題ですが、今本当に頭の痛い問題です。大町病院は産科も二人、小児科も二人の医師がいて頂いておりますが、やがて先生が異動の時期になったり、定年で辞めていく時になれば、補充が出来るかどうか不安ですし、また、病院の心臓である内科についても、今5人のお医者さんが一生懸命になってやっていただいておりますが、私自身も一生懸命手紙を書いています。大町出身の県外で働いているお医者さんが「大町に戻って来たい。」という話を聞き、ご紹介していただいたので手紙を書いておりますが、とにかく頭を下げてお願いに行かなくてはと思っています。

出席者

市の職員について

市長回答

試験という能力実証を経て優秀な人が市に入ってきています。ところ採用試験ではがそのときまでの成績を実証している訳で、その後は職務を通じてどんどん伸びていってもらわなくてはいけないのは、どの組織でも同じだと思います。その点においてまだまだがんばらなくてはいけないと私も実感しています。私自身も伸びていかなくてはいけないし、職員も一緒に伸びていただくように私も気をつけて行きたいと思います。

建物や道路は徐々に痛んできています。建物では新たに作らなくてはならないものはないと思いますが、古いものがだんだん出てきていますので適切に手をいれなくては、取り返しがつかなくなることもあります。これからは維持補修の時代、適切に時期に適切な手を入れていくことによって、

折角の財産を長く丁寧に使っていこうと考えています。

その中で改築をして行かなくてはいけないのが中学校と保育園がいくつか残っています。中学校はすでに第一中学校が完成しましたが、100年建築と名づけられましたが、出来るだけ造っては壊すことのないように、長く持たせようという考え方で作りました。その良い点を引き継いで今仁科台中学校の設計に入っていますが、そのようなつもりで維持補修をしながら、長く使っていくことを念頭にしていきたいと思っています。

維持管理の中で手を抜くと、後で大きな出費が伴うという意味では道路も同じです。特に道路の機能そのものだけではなくて、交通道路の安全や周りの景観調和を考えれば道路の草刈も大切ですし、ご提案のとおり道路だけでなく、周辺の河川敷も一緒にやったらどうかと言うご提案も、ちゃんと持ち帰って担当の者に伝え検討するようにいたします。

出席者

財政状況について

市長回答

小さな財布、財政規模だとやりくりは大変です。夕張市と王滝村についてですが、まず夕張市については産炭地域、炭鉱で栄えた町であり、炭鉱が閉山されて人口が減り、町の規模が小さくなった。そのときにダウンサイジング、市の行政規模を小さくすればよかったのに、それまで維持していた高い水準を維持しようとしたことが一つと、起死回生の観光政策で、市が観光施設を整備したんですが、武士の商法という言葉がありましたけれど、行政が頑なな姿勢でサービス業をやっても、なかなかうまく行かないということは、後になって分かることです。二つの大きな判断ミスがあって、今のような状態になっているのが事実だと思います。そのときにきちんと財政状況の悪化をもっと早く市民の皆さんに知らせていけば、それではまずいということで思い切って観光施設を閉鎖したらどうかとか、そのような提言があったかも知れません。

市民のみなさんにそうした意見を頂くためには、情報開示がなによりも大事だと思います。王滝村も村直営の御岳スキー場を開発してしまっていて、私も去年の春も権兵衛トンネルが開通したので、伊那から応援に行きましたが、あれだけの規模のスキー場でしかも乾いた雪で、なるほどスキー場に適した場所だと思ったのも事実です。村が投資した直後にスキー人口が日本中大きく減少し、そうした間の悪い時に投資してしまった。その頃は隣の三岳村や中核の木曽福島町からも冬場の雇用を引受けていました。周辺の町村にも相当大きな貢献をしていたのですが、歯車が狂ってしまいました。現在は民間に譲り渡してもう一回やりやおそうとしています。中京圏のお客さまが多かったのですが、現在は飛騨川沿いの岐阜県の北部のスキー場に行くようになってしまって、なかなか木曽地方のスキー場には戻

ってこないのが実情です。

そうならないためにも市の実情をつぶさに、市民の皆さんにお知らせし、早めに手を打つ、行政とは一度したことはなかなか非を認めたかからない体質があるかと思いますが、頑なになっていきますと時期を逸しますので、これはその判断は時期を逸しないようにしなくてはならないと思います。

そうした中で一つは財政の状況は広報おおまちで時々お知らせしています。ところが財政の話は難解で読むのが億劫だし、市の職員でも財政担当以外はなかなか財政の話はのってきいてくれないのです。市民の皆さんにもなかなか解りにくい話です。ですからこれは伝える責任がありますので、これからはもっともっと解りやすく伝える努力をしていきますし、市民の皆さんも「知る義務」もあるということがありますので、難解であってもちょっと目を通して頂いて解らないところがあればお聞きいただきたい。

その中で実質公債費比率という話がありましたが、国が財政が悪化する前にもっと早くチェックしようと言うことで、今までも公債費比率・起債制限比率・公債費負担比率という、いくつかの借金、公債費を軸とした指標を設けていましたが、実際の借金以外にも借金と同じ性質の経費について、例えば大町病院に義務的に繰り出している経費などもカウントして計算することで設けられたのが公債費負担比率です。18年度の決算を終えたところで決算統計という統計をとっていますが、その決算統計を通じてこの指標が発表される予定です。市の中で大町市がトップになる見込みで、数位は21くらいになると試算しています。大町市の財政状況はそんなに悪くはないのです。税収が割合と堅調で固定資産税もあり、税収全体としては良い方なんです。ところがその大町市の財政の規模、一般会計でいいますと19年度は160億円ほどなんです。その財政規模に比べれば、一つは大町病院と言う自治体病院を抱えている。もう一つは下水道の事業が長引いていて、平成22年には完成予定ですが、下水道への繰り出しが大きな負担になっている。正式には来月くらいには発表かと思いますが、議会にもご報告しなくてははいけませんし、市報などを通じて市民の皆さんにもご説明していきたいと思います。それまでもう少し詳しく分析して対応策も合わせて提示していきたいと思います。実質公債費比率は低い方が良いに決まっています。ただ難しいのは前知事が借金減らしたと言っていました。借金が減ったのは事実ですが、努力というのではありません。ひとはオリンピックの準備・平成7年の災害復旧などの借金の返済がピークを越え、減っていく時期だったのです。それから普通、道路整備などで借金が増えますが、それをやらなければ借金は増えません。これは判断ですから良い・悪いとかの問題ではなく、新しく負債を増やさなかったから、減ったということです。ある意味では結果なんです。この評価については私は申し上げませんが、道路整備が遅れたというところにマイナスが現れ、しかし見た目の財政状況は良くなったというプラスの面がある、そのどちらをとるかということだだと思います。歴史が評価すべきということです。

その中で借金が減ったということが良いかと言うと、投資の水準、市民

の皆さんに必要な基盤整備が出来ているかどうかと合せて考えなくてはならないと思います。厳しい中ですが大丈夫なように努力してまいります。市民の皆さんに迷惑のかからないようにしていきます。市役所に任せておけば大丈夫ということが危ないので、チェックはしておこうとお考えいただくとうれしいと思います。

出席者

馬小屋の前の交差点に何らかの対策をお願いしたい。

市長回答

交差点付近の道路は少し曲がっていますが、相当のスピードで車が通過しています。観音橋、市街地から来た車も運動公園の脇を通過してその交差点に顔を出し、歩行者も、そこから出る車もなかなか危ない状況があると思います。信号機を付けるのは公安委員会の役割ですので意見交換の中で出させていただきます。警察行政も日本全体の規制緩和の中で速度の規制など最近とても慎重です。確かにあそこの所はスピードが60～70km出している車が多くて、要望として挙げてみたいと思います。

出席者

オリンピック道路は元々農道であり、改良が必要では？

市長回答

コンビニのある交差点から南のところ、一回東に曲がりそして大町富士の北で右に曲がる2ヶ所のカーブの所は、確かに広く幅とっていません。これは改良すればするほど、またスピードを出して通過するという逆の面もあると思いますが、いずれにしても冬、滑って住宅に車が突っ込んだという話も聞きました。建設事務所に要望として伝えて行きたいと思います。農作業しているとき路肩の下で草刈などしていると危険だという話も伺って、泉地区の正式な陳情としてもあげていただいています。いろいろ智恵がないかと思って伺いますと清水地区で山麓線の直線が何キロも続くところがありますが、建設事務所から草刈の時に草刈作業中という台を借りて置き、そして注意を喚起するというをしているそうです。もし必要でしたら建設事務所に相談してみたらいかがでしょう。市道の部分で市から貸し出しているかはちょっと解りませんが、もし市のほうに準備が出来ていました対応出来るか確かめておきたいと思います。

出席者

大町市の人口を増やす対策について

市長回答

先ほどのパンフレットの7ページを見ていただきますと、平成17年で32,145人、これは平成7年10年前から比べると1,500人位、5年前の平成12年から比べると加速度的に減っています。これを何も対策しないでいると、推計で推計1というのが10年間の推計、下の推計2というのはこの5年間の減り具合を前提に推計したときの数値です。平成28年には推計1では28,617人、この5年間ベースの推計ですと27,040人、このまま放って置けばこうなってしまうという、そうした自然的な減少も機械的に推計したのですが、そうならないように努力目標を設定して、政策を推進していきますということで、3万人規模をなんとか維持していくよう政策を持って行きたい、それを努力目標にしていきたいと計画しました。そのために二つの施策がありますが、産業・工業だけでなく観光・農業やそうした産業振興によって働く場所を設けて、人口を維持していこうと考えています。まず企業誘致で大きいのは東洋紡の跡地で15万平方メートルが残っています。実は去年くらいまではなかったのですが、今年になって東洋紡の跡地について照会がぼつぼつきています。それがただちに立地に結びつくわけではありませんが、少し立地の可能性がでてきたのかなと肌で感じます。今年7月に新しいパンフレットを作りまして工業用地がこれだけありますというだけでなく、大町はこんなに素晴らしいところです、地下水も豊富な状態ですなど売り文句を強調しながら、そして一番大事なのはここには一生懸命働いてくれる勤勉な労働力がありますということを出るだけアピールしてあります。大事なのは二つあるそうで地域の方が企業を愛して受け入れてくれるか、進出した後にその企業を地域の方が大事にしてくれる風土であるかどうか、もうひとつは市の理事者が熱心であるかどうかだそうです。私はその他に高速道路からのアクセス30分以内、今は15分以内でなければダメといわれているそうですが、高速交通網も大事な要素ではありますが、実はそれよりもまして地域の皆さんが受け入れてくれるかということが重要視されるということも聞いています。トップセールスといいますが私も先頭に立っていきたいと思います。これが新しい企業の誘致です。

もうひとつ大事なのは市内で様々な産業を展開してくれている事務所があります。今年の5月から市の職員が直接伺いまして、現在の状況はいかがですかとか、市の行政に対する何か注文はありませんかと、こまめに聞いております。その結果では企業で独自の業績をあげてきている、企業独自の技術をもっていて受注も堅調ですというところが多いのです。その時にもう少し人員を増やそうと、ハローワークなどに求人を出していても来てくれないというのです。ハローワークに聞くと有効求人倍率が、6月で0.72位なんです。一人の求職者に対して求人が0.72しかないという、その統計としている数字が違うのでしょうか。企業を20軒位廻っ

た、レポートを読ませていただいているのですが、従業員を確保したくてもなかなか集まらない、しかたなく派遣会社に頼んだとか、本社から派遣してもらったとかになってしまうようです。感じたのは先ほど申し上げたように、かつては大町には昭和電工とか東洋紡とか大きな会社があったものですから、市民の皆さんも良い会社と言うと、ああゆう大会社をイメージするものですから、たとえば息子さんが東京にいて来春卒業する時に「就職どうする」と言うとき、お父さんが「大町には良い会社ないから、そっちで仕事さがしたらどうか。」と言ってしまわないか。大町にも小規模ではありますが、がんばっている企業があり、人を求めている企業があるのに、なかなか市民の皆さんが、小さな会社に気持ちが向かないということがあるのではないのでしょうか。そこで広報おおまちに、市内でがんばっている企業の紹介を載せてはどうかと考えております。それによって皆さんに、大町にも小さいけれどもきらりと輝く企業があると、東京の学校を卒業する息子さんに大町にもこのような企業があると紹介し、また帰ってきてくれるきっかけにもなるのではないかと取り組みたいと思っています。

雇用の場の確保は地域の活性化に繋がりますので、政策の柱として他の六本の柱と同じようには扱わないように、特に一生懸命取り組んでいきたいと思えます。

出席者

企業誘致、特に IT 産業の誘致について。

市長回答

たとえば製造業を誘致した場合、ほとんどの製造業の現場では最近ではロボットが製品を作っているようなところが多くなっています。伊那地方はそのようなところばかりでしたが、大きな工場で機械は動いているけれど、人は少ないというのが今の最先端の製造業です。そこへ行くと確かに IT 産業、知識集約産業などはマンパワー、人の数で仕事をしているところですから、そうした企業ですと大勢の人に来てもらえる可能性がありますので、そんな点に気をつけていきたいと思えます。ただひとつだけ 7 - 8 年前になりますが、今東御市になりました上田の隣の東部町で同じ発想をして、町長さんが、先頭に立ってやろうとして、企業に行き質問されたことが二つあるんだそうです。ひとつは町の近くに有数の高等学校がありますか、もう一つは、大きな病院はありますかと聞かれたそうです。あの辺りには医療機関はなくて、町長は閉鎖しそうな民間病院を買い上げて町立病院をつくりました。ただ 30 床程度の小さな病院ですので、結局注文に応じきれぬものではなかったのですが、いち早くそういうことに気が付いて取り組みを始め、東部町は先端の企業が少しずつではありますが、立地し始めていました。大事な点だと思えます。

出席者

サークルKから蓮華大橋間の道路改良をお願いしたい。

市長回答

先ほども申し上げましたが、この道は直線道路でスピードが出ます。一方、農道でつくられて、後で市道に付け替えられたことがありまして、歩道がありません。そこで泉自治会からの陳情の中で、いつも上位のランクで要望いただいております。市の建設課で検討させていただきましたが、ひとつは市道沿いには人家がないがために歩道を作るほどの歩行者の通行がないではないかということがあります。市内でも実際に歩行者があるいている道路で、歩道が無いところの順番が先になってしまい、なかなかこの改良の見通しが立たないのが実情です。なんとか知恵を出しながら危険の無いように、歩道はひとつは見通しが利く、それから路肩で草刈などするためにも安心のための緩衝材にもなり得るので、歩道は人が歩く以外にも大切な役割があると思いますが、現在はその様な状況でなかなか見通しがたっていないのが現状です。強い要望があったことを担当課に伝えて、検討していきます。

【懇談終了 21:15】